



マレーシアの発展と途上

野中 真里

私はこの旅行の始まりである、マレーシアの広々とした明るい空間が広がった近未来を想像させるような素敵な空港に着いた時、「ここが発展途上国なのだろうか」と疑問に思いました。辞書によると、「開発途上国とは、経済発展や工業力などの水準が先進国に比べて低く、経済成長の途上にある国を指す」とあります。

4泊6日のこの研修旅行で私は「発展途上国」という言葉が頭から離れませんでした。ホテルを中心とした街並みは高層ビルが立ち並び、鮮やかなファッションの人達で溢れかえり、コロナ禍ではありますが活気に満ち溢れていました。しかし中心地から離れ、マラッカの街を訪れる道中、車窓から見た景色で私はハッとしました。

その時の景色がこの一枚です。高層ビルが立ち並ぶ脇には決して素敵とは言えない建物や空き地、いわゆるテレビでみる「発展途上国」の景色はそこにありました。この時「マレーシアの発展と途上」を垣間見た気がしました。高層ビルが立ち並ぶだけが発展ではないし、古い町並みが新くなれば良い訳でもありません。ホームビジットはとても楽しかったし、これからも大切な文化を守り続けて欲しいとも思いました。

経済の発展によって新しく生まれるものもあると思いますが、今まであったものが失われることもあると思います。変えていかなければならないもの（こと）と変えてはいけないもの（こと）のバランスがとても大切で大変な事なのだという事を私はこの研修旅行で学びました。